

# 2015 年度 特別支援教育フォーラム

2015 年 9 月 30 日

和歌山大学特別支援教育

コーディネーターフォーラム事務局

Info-seforum@center.wakayama-u.ac.jp

## 第 61 回和歌山大学特別支援教育コーディネーターフォーラムを開催

9 月 30 日（水）夜に、第 61 回和歌山大学特別支援教育コーディネーターフォーラムが、4 会場をテレビ中継で結び開催されました。お忙しい中、56 名の方がご出席くださいました。

今回は、和歌山大学会場から和歌山大学 武田先生と紀北支援学校 前田先生が、田辺会場から、みはま支援学校 赤松先生・向井先生が、新宮会場から、みくまの支援学校 中本先生が、きのかわ会場から、きのかわ支援学校 久保先生・滝元先生が講演してくださいました。各会場からのご講演、出席くださいました皆様からのご質問をいただき、大変盛況で有意義なフォーラムとなりました。

### 講演 テーマ

『特別支援学校のセンター的機能の現状と課題  
— 地域内における学校等支援（教育相談）を中心に —』

講 師： 和歌山大学 教育学部 教授 武田 鉄郎

特別支援学校のセンター的機能としての役割は、地域学校教員への助言や援助、障害のある児童生徒やその保護者に対しての指導や支援、医療等関係機関との連絡や調整など多様である。学校授業と並行してこれらの相談や支援に関わるには、たいへん忙しい思いをしておられると思う。

「障害者の権利に関する条約」において、学校は児童生徒に合理的配慮を行うこととなった。合理的配慮はどのようにすればいいか。診断を受け自分を理解したうえで、支援者と話し合い本人が支援の選拓決定をする。このように、本人が変更・調整を決定する過程が重要だと考える。

講 師： 和歌山県立紀北支援学校 前田 美和子

紀北支援学校は、教育支援部を中心にコーディネーター10名でセンター的機能としての取組みを行っている。主な取組みは、巡回相談、相談者からの依頼による教育相談、小中学校の教員などに対する研修会の実施などである。

最も多い相談は、特別支援学級や通常学級に在籍する児童や保護者への支援方法についてである。学習面、友達への暴力などの問題行動、不登校など二次障害への対応、児童生徒や保護者との信頼関係構築についてなど相談は多様である。これからは、様々な支援を行うために、個人レベルでの勉強が必要である。また、関係機関の方と一緒に相談活動ができるようなシステムづくりも必要だと考える。

講 師： 和歌山県立みはま支援学校 赤松 正敏  
和歌山県立みはま支援学校 向井 未稚

みはま支援学校のセンター的機能は、子どもの教育の充実・保護者、教育関係者への支援等の体制構築を目指し支援部が取り組んでいる。支援活動は、教育相談・巡回相談・研修会の開催等である。

月1回、生徒・保護者・担任が来校し教育相談を実施している。生徒と教育相談者との話のなかで、生徒に困り感に気づかせたうえで、数個の解決案を示し生徒に選択させている。そうすることで生徒は、自主的・意欲的に取り組むことができる。また、保護者と担任は、生徒と相談者とのやり取りをそばで実感することで、子どもの特性を知り、適切な支援方法や子育て力の向上につなげていくことができる。

関係機関それぞれが主体となり、連携して顔の見える支援を行なうことが大切だ。そして、この地域支援チームをどのように活用するかが大切だと思う。

**講 師：** 和歌山県立みくまの支援学校 **中本 雅子**

みくまの支援学校開校当初は、障害について相談するところが少なく、支援学校だけが相談の場になっていた。障害を有する子ども・保護者・地域の学校教員への支援、福祉関係との連携づくり、巡回相談の開始、校内体制の育成など多様な支援をしてきた。現在、地域学校のノウハウの蓄積や過疎化により児童の相談件数が減少した。しかし、当初の子どもの成長により高校や社会人への支援ニーズが高まっている。

今後、生徒に理解させられる授業力の向上、不登校問題、各関係機関の多忙による難しい連携などを、さらに高めることが課題だと考える。

**講 師：** 和歌山県立きのかわ支援学校 **久保 尚美**  
和歌山県立きのかわ支援学校 **滝元 あゆみ**

きのかわ支援学校は、教育相談、巡回相談、きこえことば・見え方相談、研修会等の地域支援を行っている。昨年度、地域支援を行うなかで課題が見え、改善した点がある。例えば、相談が単発であることが多く、二次予防ができないケースがあった。今年度は、継続して支援を行うため、長期休暇中に連絡をとり子どもの変化の有無を確認している。

現在の課題は、校内体制の確立や外部資源の活用と連携、知的障害がない子どもへの支援などがある。今後、通級指導教室の担任教員やコーディネーターとの情報交換を密にし、関係機関とのネットワークを深め、よりよい支援を目指したいと思う。また、支援する側は専門性を高め、情報発信していくことも大切だと考える。

## 質疑応答

### ① 支援チームづくりはどのようにしたらいいか

A ひとりで問題を抱え込まず校内委員会なども活用し、他の教員に様々な意見を聞く。福祉関係の方に相談し、関係機関に繋いでもらう。

### ② 専門性を高めるにはどのようにすればいいか

A 研修会・福祉協議会などに参加し、勉強し続けることが大切。また、先輩の教員や地域の巡回相談で先生の話しを聞き学ぶ。

## 参加者の感想より

- ・他校の情報を知り良い点を自分の地域に活用し、地域の支援力を高めていけるよう取り組みたい。
- ・連携は、お互いの理解などの信頼が必要であり大変難しく時間がかかると思った。
- ・地域学校への情報発信や連携を大切に進められていると思った